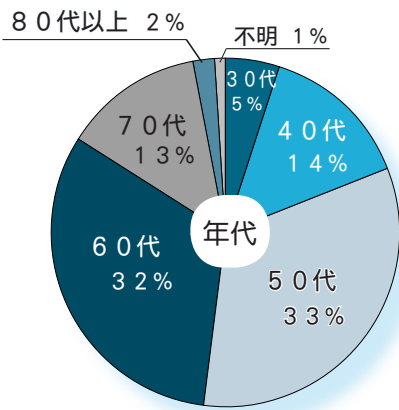
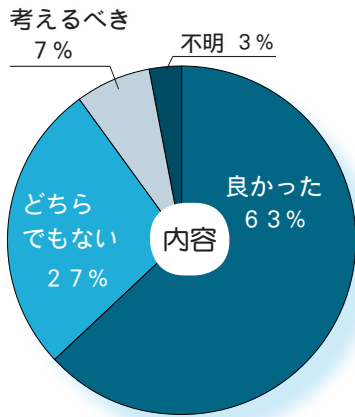


## 参加していただいた方々 (参加者数1246人) (回収枚数1130枚)



20代 0%、20歳未満 0%



## 昨年の小地域懇談会では 女性の人権を 話し合いました

昨年10月から12月に、町、町教育委員会、町人権・同和教育推進協議会の主催で行った小地域懇談会についてまとめてみます。

今年はさまざまな人権問題を考える視点から、今まで取り組んできた同和教育を基礎に置きながら、メインテーマとして「女性の人権」を取り上げました。女性の人権に気づくこと、考えることから、さらに家庭・地域・社会で女性の人権をどう守り、どう発展させるかを話し合う懇談会としながら、今後の行動化へつなげて行く機会とさせていただきます。

### 懇談会で出た主な意見

(1) 私はカラスじゃないですよ。

- ・ 名前の呼び方が問題ではない、その背景が気になる。
- ・ 夫が退職してずっと家について、こんな状態は、それはたまらない。
- ・ 夫は以前は仕事の関係で家事は何もしてもらえなかったが、今では時間が取れるようになり家事をしてもらえるようになった。何歳になってもキッカケがあれば変わることができると思う。
- ・ 呼び方が問題ではなく、普段の生活がどうかと思う。「おいしいよ」「ありがと」という一言など、お互いを尊重する気持ちがあれば良いのでは。
- ・ 男、女とかと言わず、それぞれが特性を生かしてやるのが大切では。

### (2) 大正・昭和・平成 女性の悩み

- ・ 我慢するか、別れるか。それは時代の変化？女性に対する人権などが変わったことを考えさせられた。
- ・ 幸せになる権利も昔は選択できなかったが、今は結婚などに対する意識や重みなどが変わってきている。
- ・ 時代の流れとともに啓発などが行われ、ここまですべてが啓発などをして、社会的にも認知されていくことが大切ではないか。
- ・ 時代の変わりを感じる。何十年か経てば男女共同参画ももっと進むのではないか。進めばいいな。
- ・ 今は人として尊重する時代、教育も変わってきた。我慢の時代でなく尊重の時代。
- ・ 社会も変化してきた、自分の意識も変えなければならぬ。

### (3) 振り返りシート

#### 男とは 女とは

- ・ 喪主に誰がなっても良いのでは。女性が喪主をしたことがあったが、おかしいとは思わなかった。
- ・ 父兄という呼び方が、保護者という呼び方に変ったことは良かった。
- ・ 国技館の土俵になぜ女性が上がれないのか。昔、女性は穢れていないという風習があり、神聖な場所が上がってはならぬと言われた。中学校教育で勉強し、穢れに対する意識も変わってきた。
- ・ 以前、大阪府知事が土俵に上がれなかった。伝統は大事だが、穢れからきていることについては疑問がある。
- ・ 伝統にも守るべきものと、変えていかなければならないものがあるのでは。
- ・ 女らしく、男らしくでなく、人としてという観点でとらえることか。

### 今後の課題

- ・ 最近、人権分野も新しい人権問題にも幅が広がってきている。例えば、拉致被害者の人権問題であったりしている。
- ・ 国内でも最近では従来より起こらなかったような人権問題が多発しており、今までの感覚ではとらえにくい、とらえられないような範囲となる事例が起こっている。
- ・ 安心・安全に暮らせる町づくりや地域づくりを考えると、高齢者、子ども、女性など、いろいろな人権の視点・観点・感覚を基調としたものが求められる。
- ・ いろいろな人権問題や人権課題に気づき、目を向け、自分たちが住む地域や町をどう構築するか、考えるキッカケとなる小地域懇談会が今後も必要と思われる。